

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和6年6月5日（水）
- 2 確認箇所
増設雑固体廃棄物焼却設備（図1）
- 3 確認項目
増設雑固体廃棄物焼却設備廃棄物貯留ピットにおける伐採木チップ等の回収状況
- 4 確認結果の概要

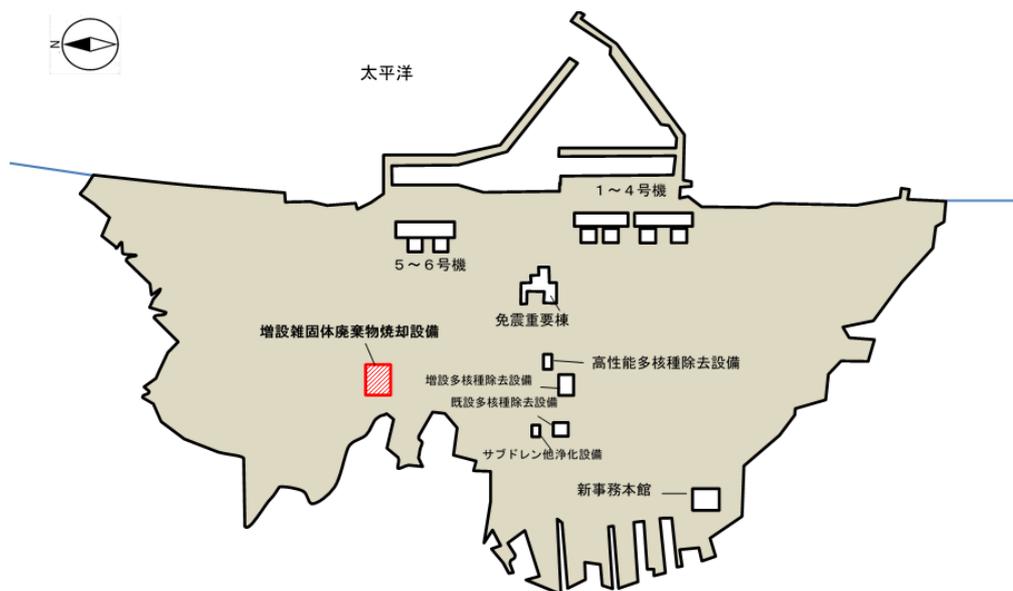
令和6年2月22日に増設雑固体廃棄物焼却設備の建屋内にある廃棄物貯留ピット（以下「ピット」という。）に貯留している伐採木チップから水蒸気が発生したことにより火災報知器が作動したため、伐採木チップの除熱のために散水（約1,200 m³）を行った。散水により水蒸気発生は停止したものの、ピットが水を貯めることを想定した設計ではなく、ピットからの滴下も確認されていることから、3月22日よりピット内の水と伐採木チップの回収作業が行われている。

回収された水は、Fタンクエリア内にあるN2タンクに一時貯留されている。【確認日：令和6年5月27日】また、回収された伐採木チップは、解体タンク部材一時保管施設等において乾燥作業が行われている。

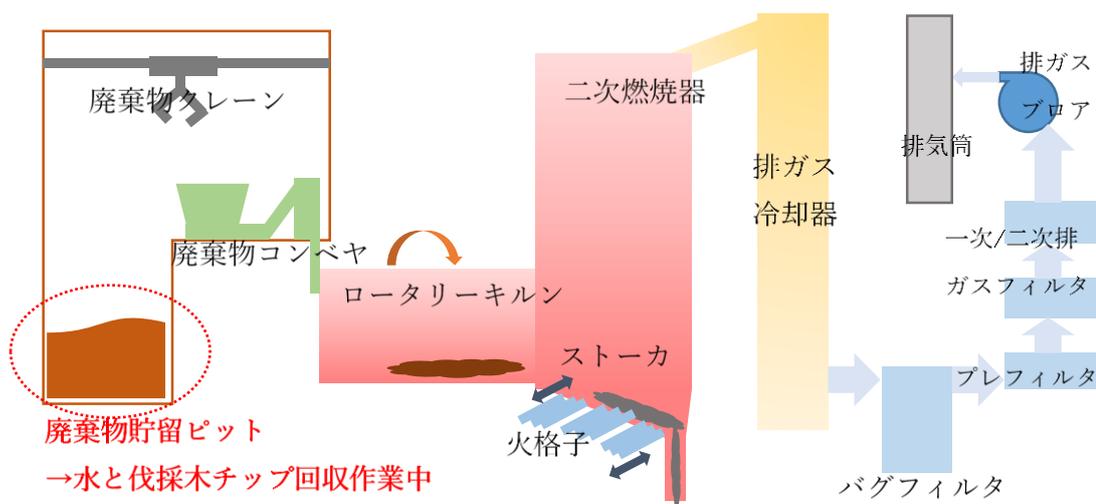
【確認日：令和6年5月29日、令和6年6月4日】

今回は、増設雑固体廃棄物焼却設備の建屋内において行われているピット内の水と伐採木チップの回収作業を確認した。（図2）

- ・ピット上部からピット内を確認したところ、ピット（深さ約9 m）の上端から約4 mのところ水位があり、水面には伐採木チップ等が浮遊していた。（写真1）
- ・ピット内の水の回収作業が行われていた。（写真2）
- ・回収作業は、建屋のシャッターが閉じられた状態で行われており、伐採木チップが建屋外に飛散することはなかった。（写真3）
- ・東京電力によると、回収が必要な伐採木チップの想定量は、約800 m³であり、7月末迄の回収完了を目指すとしている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(図2) 増設雑固体廃棄物焼却設備の模式図 (東京電力資料を参考に作成)



(写真1)
ピット内の状況
※建屋内にあるクレーン操作室から
撮影



(写真2-1)
ピット内の水回収作業の状況①
※監視カメラの映像を撮影



(写真2-2)
ピット内の水回収作業の状況②
※建屋内にあるクレーン操作室から
撮影



(写真3)
増設雑固体廃棄物焼却設備の外観

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。